



富岡製糸場を愛する会 高橋 伸二さん

地域づくりのきっかけ

富岡製糸場を愛する会は、富岡製糸場の当時の所有者であった片倉工業株式会社が操業を停止した年の翌年、昭和63年に誕生しました。私は平成12年から責任者を務めています。私自身も富岡市民ですし、農業をやっています。また、私の父親も農協の組合長で養蚕農家の仕事をしていた人間でした。養蚕というのは、日本を近代化させた産業の原点です。その原点である富岡製糸場が今もそのまま

の形で残っているのです。そんな世界遺産としての価値があるこの製糸場を私たちが引き継いでいるのですから、新たな気持ちで対応していこうと、富岡製糸場を活かした地域づくりに取り組んできました。

市民に身近な製糸場へ

私たちは住民に対して富岡製糸場の価値を伝え、これを愛護するよう啓発するため、企画や教育啓発などの7つの部会を設けて活動しています。

活動の基本は「伝える」

また、「かわたれの榎音」という製糸場の全容を描いた歴史小説があるのですが、日本の黎明期に日仏の人々の並々ならぬ努力と心の交流によって、製糸場が完成したことがよく描かれています。製糸場の背景を理解する有効な方法になるといっていいので、現在のこの小説の映画化を進めています。

映画化にあたっては、フランス大使館にも後援をもらっています。フランスは日本の近代化に対する最大の貢献者だと思っています。フランス大使館の方々も、これは日仏に非常に役立つので是非協力させて下さいということですが、大変喜んでくれました。今、映画化に向けて1年くらい進めています。だいたい盛り上がりつつあります。

その他にも、住民に製糸場を開放するために、3年前から観桜会やシルクコンサートを開催しています。観桜会は、今年は4月2、3日に行う予定です。当会はその責任者として会を盛り上げています。富岡の市民がこぞって観桜会をやって楽しんでいて、他の地域から来た人にも見ってもらおうという、広報活動の一環です。



先人がいたから日本は近代化して幸せになって、世界遺産として認めてもらえるものを持っているのです。この素晴らしい先人の業績を製糸場を通して感じて、それをもっと皆さんに知ってもらいたいので、我々の活動の基本は「伝える」というところにあります。地元の人でも、製糸場を知っている人は少ないです。ですから、イベントなどを通じて製糸場に来てもらって製糸場の価値を感じてもらえればと思っています。

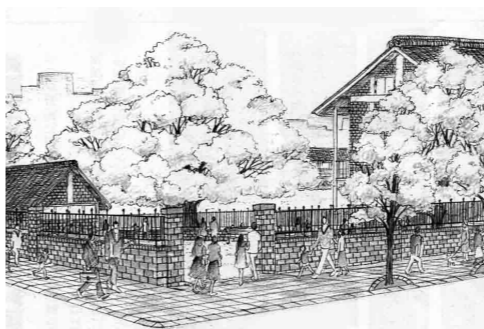
住民目線で将来を考える

また、子どもたちの義務教育の段階から、社会科見学のよう形で製糸場について学んでもらえる

主な活動内容としては、平成19年に富岡製糸場が世界遺産暫定リストに登録されて以降、製糸場と周辺地域の景観調整や整備活用を検討し、提言しています。

現在の製糸場はレンガ塀の老朽化が進み、閉塞感があります。そこで東西北のプロック塀を、場内が見渡せるような赤レンガをベースとしたフェンスで整備したり、市民が散策できるように製糸場周辺を遊歩道にするなどの提案をまとめました。

これらを今後、富岡市に提案していく予定です。製糸場が市民にとって憩いの場になれば、この辺りの街並みが一変するのではないかと思います。



富岡製糸場の周辺整備のバース。人々に親しみやすい開かれた空間を提案している。

ように出来たらいいと思います。

現在は、高校生のボランティアも参加していて、春と秋に花壇に花を植えたり、小学生や中学生を呼んで花の植え方を教えたりもしています。街角のあちこちに花を植えると、それを見ている隣近所の人たちが今度は手伝ってくれたり、花壇が交流の場にもなっています。

市民を巻き込んだ活動はどこまで出来るか分かりませんが、こういった製糸場という国の重要文化財を取り巻く部分で、安全性などはしっかりしなければいけませんし、それには技術的な面も含めてよく行政と相談しながら進めたいと思います。

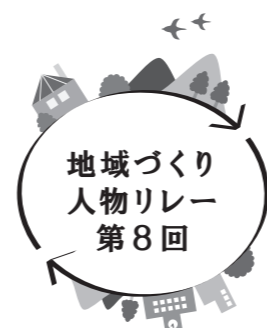
これからも住民目線に立って、10年後、100年後のこの地域の将来を考えながら、多くの若者たちを仲間に、多角的に夢のある地域づくりに取り組んでいきたいと思っています。

最後に一言

住民によるまちづくりを、実質的にも制度的（自治基本条例）にも実現させていきたいです。

「賢人の情熱を語り継いで」

富岡製糸場を愛する会 高橋 伸二さん



地域づくり人物リレーは、県内で地域づくり活動をされている方を取材し、紹介して参ります。第8回目は、主に富岡製糸場で活動されている高橋伸二さんにお話を伺いました。

好きな言葉

「可能性に挑む」「ものごと正面から立ち向かう」です。私はプロボクサーでしたが、怖ければ人の心は引いてしまします。しかし、「怖ければ前に出る」というのがボクシングの本質なんです。逃げると自分自身がどんどん追い込まれていってしまうんです。正面から立ち向かえば必ず解決法が見つかると思います。

本のご紹介



「かわたれの榎音」田村貞男 著 あさを社
富岡製糸場の価値が伝わる一冊です。ぜひこの機会に読んで下さい。

WHO IS NEXT?
次にバトンが渡る人は誰でしょう?
次号をお楽しみに!!